

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	18HP2006	事業期間	平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
人文社会データサイエンス研究における国際的若手研究者育成と国際的情報発信の取組		日本行動計量学会	理事長・植野 真臣
学術刊行物の名称			(略称)
Behaviormetrika			

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
○ B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>1. 平成30(2018)年度は予定通り国際ワークショップが開催されたが、令和元(2019)年度については、新型コロナウイルス感染症の影響等により令和2(2020)年3月実施予定の国際ワークショップが中止となり、令和3(2021)年1月末に延期となった。中止はやむを得ないことであるが、令和元(2019)年度に予定されていた、編集委員会の開催等の国際化促進の取組まで中止となったこと、また、その代替案について、中間評価報告書及びヒアリングでは十分に示されなかった。</p> <p>2. 来年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響等が懸念されるなか、当初計画としている国際ワークショップの日本国内開催及びそれに伴う研究者の招致等が予定通りに進まない場合に、学会としてどのような代替案を準備しているのか、中間評価報告書及びヒアリングでは明確な答えがなかった。</p> <p>3. Behaviormetrikaへの投稿数、掲載数については中間目標を達成しており、今後も継続的な努力が望まれる。</p>	